

2022.06.02. 木曜礼拝 自分の心に従ってはならない

エレミヤ書 11 章&聖餐式

JD ファラグ牧師

今夜はエレミヤ 11 章です。旧約聖書を書ごと、章ごと、節ごとに読み進めています。旧約聖書を書ごと、章ごと、節ごとに読み進めています。このエレミヤ書は、ただただ、わお...ですね？ 他の言葉が思いつきません。ただ、わお...祈りましょう。神の御言葉の中で私たちが共に過ごす時間を祝福してくださるよう求めましょう。よろしければ、一緒に祈りましょう。

天のお父さま、本当にありがとうございます。私たちは、木曜日の夜に行われるこの聖書の学びに、あなたの御言葉にとっても感謝しています。とても楽しみにしています。私たちの多くは、一週間のうち、本当に中間の時です。しかし、週の終わりに向かって、私たちはただ自分を再編成して調整し、ある種のリセットと再起動のために、すべてを脇に置いて、あなたが与えてくださったこの美しい場所に来て、ただあなたの御言葉の中でこの時間を過ごすことができます。あなたはいつも私たちの人生に忠実に語ってくださいます。あなたはいつも、ぴったり当てはまる御言葉を用意してくださいます。聖霊によって、まさに私たちが聞くべきことを、聞くべき時に用意しておられます。あなたの御言葉のどこを読んでいるかは重要ではありません。あなたの御言葉は生きていて、活発であり、どんな両刃の剣よりも鋭く、超自然的な正確さで、骨と髄、魂と霊の間を切り裂くことができますからです。

ですから、主よ、私たちは今夜、共に過ごす時間の中で、あなたの御言葉の中で、あなたが私たちのためにそうしてくださることを心から期待しています。あなたがしてくださることに、前もって感謝します。イエスの御名によって、アーメン、アーメン。

それでは、今夜この章の中で見ていくことは、ユダのように、自分の悪い心のままに従うとどうなるかということです。この有名な言葉を聞いたことがある人は多いでしょうし、私のように自分で言ったこともあるでしょう。”ああ、ただあなたの心に従って。” そんなことしないでください。

さて、エレミヤ 17 章、具体的に 9 節にたどり着くと...今夜は 11 章ですが、そこにたどり着くまでに、携挙が先に起こるかもしれません。そうなれば素晴らしいのですが。17 章 9 節にたどり着いた時、そこで読むのは、私たちの心は欺きで満ち、邪悪だということです。ただこの 2 つの単語が並んでいるのです。欺きで満ち、邪悪。私たちの心は、偽りで満ちているのですが、ただの偽りではありません。心は欺きで満ち、邪悪です。自分ではどれほど欺きで満ちているか分からないほど、欺きで満ち、邪悪なのです。それが、エレミヤ 17 章 9 節です。この箇所は皆さんご存じだと思います。良く知られた一節ですが、それには理由があります。というのも、それがありのままを語っているからです。今夜、私たちの心の傾向がどうであるかを、この 11 章で見ることになります。さて、この言葉についてですが、これからこの言葉について話をします。傾向、傾き、私たちは傾くのです。私たちは、このような性質、傾向、いわば屈折したものをもっています。磁極の例で説明しましょう。私たちの心の中には、この磁極のようなものがあって、その磁極が自分の心に従うようになっているのです。それは、主に従うこと、主に従順であることに反しているのです。そうすると、いつも例外なく、結果は大惨事になるのです。良くご存じだと思います。今夜、この章で私たちが実際に見ていくことは、エレミヤがこのことについて語ろうとしていることです。彼はこれに対して真理を語ります。これは、エレミヤ 1 章からいきなり読んだものです。神がエレミヤを召し、エレミヤに語られ、「わたしはあなたの口にわたしの言葉を置く。あなたは民に語るのです。そしてエレミヤよ、誰一人それを受け入れない。それどころか、彼らはあなたの根性を憎む。実際、

彼らはそのことであなたの根性を憎むだけでなく、そのためにあなたを殺したいと思う。」今夜、それを見ていきます。エレミヤの命を脅かすことにつながるのです。なぜか？ なぜなら、エレミヤは真理を語り、彼らはそれを聞きたくないからです。だから、エレミヤを黙らせようとするのです。メッセージが気に入らないからメッセンジャーを殺すという、典型的な例です。この描写をお許してください。なんだかユーモアのある話ですが、それはそれとして。郵便配達員が郵便物を持って現れたと想像してみてください。配達員が持ってきた郵便物を、あなたは受けとりたくありません。だから、その人の命を狙うのです。繰り返しますが、だから言ったように...要点はわかりますね？ エレミヤはただのメッセンジャーです。ただの語り手であり、代弁者です。エレミヤはそのメッセージを伝えるメッセンジャーに過ぎません。そのために、彼らはエレミヤを殺そうとするのです。というわけで、これが導入部です。準備はいいですか？ それでは1節に入りましょう。

エレミヤ 11

1 主からエレミヤに臨んだ言葉は言う、

2 「この契約の言葉を聞き、ユダの人々とエルサレムに住む者に告げよ。

3 彼らに言え、イスラエルの神、主はこう仰せられる、この契約の言葉に従わない人は、のろわれる。

4 この契約は、わたしがあなたがたの先祖をエジプトの地、鉄のかまどの中から導き出した時に、彼らに命じたところのものである。すなわち、その時わたしは彼らに言った、わたしの声を聞き、あなたがたに命じるすべてのことを行うならば、あなたがたはわたしの民となり、わたしはあなたがたの神となる。

5 そして、わたしがあなたがたの先祖に、乳と蜜との流れる地を与えると誓ったことを、なし遂げると。すなわち今日のとおりでである。」...

はあ...！多かったですね。息をつかせてください。

...その時わたしは（エレミヤは）、「主よ、仰せのとおりです」と答えた。

さて、ひどい出だしになってしまいましたね？ まず最初に、非常に重要なことですが、先週もお話したとおりです。これは語られたのです。これは書かれた手紙ではありません。これは、語られた預言であり、メッセージでした。そしてそれは今、神殿の入り口の門の前ではなく、ユダ全体のエルサレムで、街頭で、民に聞こえるところで、エレミヤはこれを語るようになったのです。エレミヤの応答が好きです。

「分かりました、主よ、仰せのとおりです。」「主よ、その通りです。」これは、「アーメン」の意味ですよ？ 私たちは「アーメン」という言葉が好きですね？ 会衆：「アーメン」ー（笑）ー

分かりました、聞いてください、臨床用語がありますが、非常に気が散ってしまうのです。なので、この件に関して助けてください、いいですね？ お願いします、アーメンが私を混乱させるのです。祈って、終わりにしようとするほど、気が散ってしまうのです。私たちが「アーメン」と言う時、「主よ、その通りです」と言っているのです。その通りです。つまり...エレミヤに拍手を送らねばなりません。エレミヤはこれを語るのです。おお...これから見るように、民の不従順のために呪いがやって来ることを伝えなければならぬのです。「あなたはわたしに従わなかった。」これは神がまだ持っておられないもので、私たちが神に与えることができるもの、従順です。そのことについて少し考えてみて下さい。それは何か？ 私たちが話しているのは神のことです。全知で、偏在でき、全能です。神はすべてを持っておられ、全能で、どこにでもおられ、すべてを知っておられます。神がまだ持っておられないものを与えることができるのでしょうか？ 従順です。それは、私たちが神に与えることのできる、神がまだ持っておられないものです。だからこそ、従順は犠牲よりも優れています。不従順のあまり、犠牲によって償おうとすること

があるのは事実ではないでしょうか。密接に関連しているのです。神はこう仰います。

「いいですか、わたしに犠牲は必要ない。わたしには沢山の犠牲がある。わたしが本当に必要としているのは、従順です。珍しいもので、従順です。」

必ずしも神が持っておられないもので、あなたが差し上げられることの一つは、従順です。

先に進む前にもう一つ。また非常に重要です。従順であることよりも大変なことは、不従順であることです。説明します。時に主の命令は、重荷とはならないとヨハネが書いています。(1ヨハネ 5:3 参照)

日曜日の朝のヤコブ書の学びで、3章を終えたばかりです。上からの知恵は、温順で、理にかなっているのです。あなたに重荷を負わせることはありません。イエスは仰いました。

「わたしの荷は軽く、わたしのくびきは負いやすい。疲れた人はわたしのもとへ来なさい。わたしがあなたのたましいを休ませてあげます。わたしの荷は軽く、わたしのくびきは負いやすいからです。」(マタイ 11:30 参照)

「主の命令は重荷とはなりません。」(1ヨハネ 5:3)

唯一従順より大変なのは、不従順です。罪びとの道は険しいと神の御言葉にあります。罪びとの道は、大変なのです。最後にもう一つ。エレミヤが今、神から命じられたことを民に語る時、実は申命記から引用していると信じる人もいます。この章に書かれていることは、まさに申命記に書かれていることから、納得できます。なぜそれを指摘するのか？ イエスはどの書から引用されたか知っていますか？

特に、イエスが荒野で悪魔から誘惑された時に。(ルカ 4 参照)

イエスは『申命記』からそのまま引用されたのです。申命記を共に学んだ皆さん、なんという書でしょうか。Deu 二回、ronomy 法。(Deuteronomy: 申命記) それは、律法を繰り返すということです。

律法の繰り返しを重ねること。Deuteronomy/申命記、何度も命令が書かれており、非常に完結したものです。非常に具体的な内容もあります。だから、民の前でこの話をする時、エレミヤは申命記の巻物を持っていたと考える人もいるくらいです。そのようなレンズを通して見てほしいので、このような描写をしているのです。ここで話しているのは、街頭演説者です。路上の預言者です。エレミヤは外にいます。先週の、何かの台の上に乗っただろうという話を思い出してください。当時は卵の木箱も、牛乳の木箱もありませんでしたが、あったとしましょう。エレミヤは牛乳の木箱の上に乗って、そこに立って、まさにこのメッセージを説き、預言しているのです。そして、申命記の巻物を手に、神が命じられたことを民の前で宣言している姿を想像してみてください。6節。

6 主はわたしに言われた、「このすべての言葉を、ユダの町々と、エルサレムのちまたに告げ示し、この契約の言葉を聞き、これを行え、と言いなさい。」

おお、聞き覚えがありますね。「神の御言葉をただ聞くだけでなく、単に聞くだけでなく、実行する人になりなさい。ただ御言葉を聞くだけでなく、実行しなさい。」(ヤコブ 1:22 参照) 7節。

7 わたしは、あなたがたの先祖をエジプトの地から導き出した時から今日にいたるまで、(早く起きて) おごそかに彼らを戒め、絶えず戒めて、わたしの声に聞き従うようにと言った。

なるほど、かなりの描写ですね。神が寝ておられるわけではなく、あくまで比喩的なもので、「わたしに従うようにあなたを諭すために、朝早く起きているのだ。」と言っておられるのです。「わたしはアラームをセットして...」神はアラームなんて使われませんが…、「わたしは朝早く起きて、あなたを戒め、わたしの声に従いなさいと言う。」さて、神がエジプトの地から導き出された彼らの先祖を持ち出されるのは2度目です。これこそが、神が彼らと交わされた契約だったのです。8節。よろしければ、これに少し時

間をとりたいと思います。

8 しかし彼らは従わず、その耳を傾けず、おのおの自分の悪い強情な心に従って歩んだ。…

そこで、神はどうなさったのか？

…それゆえ、わたしはこの契約の言葉をもって彼らを責めた。…

結局のところ、協定ではなく、契約なのです。契約、破れない契約。

…これはわたしが彼らに行えと命じたが、行わなかったものである。」

では、お聞きください。私にとっては、この章から得られるものが圧倒的に多いからです。なぜなら、自分の心に従うのではなく、主に従うこと、主に従順であることを明確に語っているからです。さて、エレミヤが聖霊によって、神から命じられて語った方法がわかりましたか？ エレミヤはまず、こう言い始めます。「これが、あなたがたがやったことと、やらなかったことです。あなたがたは従わず、耳を傾けなかった。」エレミヤはまたこうも言います。「これが、あなたがたが行わなかった理由だ。」これが、その背後にある理由の、典型的な事例です。それは何か？ それは、彼らが従わなかったことです。彼らは耳を傾けませんでした。それは、彼らの傾向に沿わないものだったのです。彼らは神の御言葉を聞いて従おうと、耳を傾ける気がなかったのです。そういうことです。では、なぜか？ おお、あなたが主に従っておらず、自分の心に従っていたからです。両方に従うことはできません。どちらか一つです。

マタイの福音書6章は、イエスが説かれた有名な説教で、私たちは親しみを込めて「山上の垂訓」と呼んでいます。イエスは言われました。

「あなたは二人の主人に仕えることはできない。」(マタイ 6:24 参照)

イエスは、「そうしてはいけません。もしそうしないと、かなりマズイことになる。ぜひお勧めする。」とは言われません。違います。「あなたは出来ない」と。どちらか一方なのです。神と富の両方に仕えることはできません。一方に仕えて他方を憎むか、その逆か。両方は出来ないのです。どちらかです。自分の心に従うか、主に従うか、私の耳を傾けて、神の御言葉を聞き、それに従うのかのどちらかです。しかし、私の耳が鈍ければ、先週お話ししましたが、もう一度見ていきますが、鈍い心、聞くのに鈍く、彼らは耳を閉じてしまったのです。

ところで、「私は本当に知らなかったんだ。」というのではなく、違います、知っていたのです。これは彼らの意図的な、決定的な不従順です。彼らを厳しく責めないようにしましょう。私自身も含め、私たち全員がよくやってしまうことで、これに関して、聖霊に自分たちの心を調べていただく必要があります。なぜなら、本当に強い磁極があり、私たちの肉の金属片は、私たちの心の引力に引き寄せられるように傾きすぎているのです。私たちの心が、指示しているからです。dictate/指示、決定づける 興味深い言葉ですよね？ dictator/独裁者を意味する言葉では？ それを踏まえてのことなのでしょうか？ なぜそれを指摘するのかというと、すべての人が、その指示に従うからです。彼らの心、邪悪な心、欺きに満ちた邪悪な心に指示され、それが独裁者だったのです。何をするかを指示されていたのです。彼らは、どんな指示にも従っていたのです。やりすぎですか？ その言葉を二度と見ることはないでしょう。これは独裁国家です。おお、本当に？ 誰が独裁者ですか？ 自分の心が、自分に指示するのです。「私はどうしたらいいの？」自分の邪悪な心の命令に従うのです。問題は、ここに契約があるのです。それは破られることはありません。ちなみに、結婚の話には触れたくありませんが、別の機会の話題かもしれませんが、結婚は契約なのです。破られない契約なのです。それは協定ではなく、契約なのです。大きな違いです。同義ではありません。神は預言者エレミヤを通して、民に宣言しておられます。

「あなたは契約を破った。これが、契約を破るためにあなたがしたことであり、あなたがそうした理由だ。」では、どうすればいいのか？ 独裁者に従い、自分の邪悪な心の独裁に従い、耳を傾けるのを止めてください。イエスが「羊は羊飼いの声を知っている」と言われた時のことを考えます。(ヨハネ 10:3, 4)

このことについて書いてくれた、私たち皆が大きな感謝を抱いている人たちがいます。そこには、羊たちは違う声を察知することができるという書かれています。なぜなら、羊の耳は、音叉のように、その羊飼いの特定の声に調律されるからです。では、羊飼いが病欠するとしましょう。または私の例えをお許しくください。これしかないのです。もっと良い例えがあれば、教えてください。ある日、羊飼いが病欠して、代理の羊飼いを連れて来なければなりません。羊は行ってしまいます。「あなたは誰？ その声は聞き覚えがない。」「わたしの羊は、わたしの声を知っている。」それは聖霊の静かな小さな声なのです。主があなたに語られる時、あなたは分かるのです。耳で聞こえる必要はありません。もし私たちが耳を傾けるなら、主は語ってくださいます。そのため、聖書全体を通して、何度も何度も「聞く耳」という言葉が書かれています。耳があるからといって、聞いているとは限りません。黙示録2章3章にある、7つの手紙に書かれています。「耳のある者は聞きなさい。」または、この描写をお許しくください。ただ、修辭的な質問のようなものを思い描きます。「耳がある人は手を挙げてください。」ええ、私には2つあります。2つあることに、不思議に思ったことはありませんか？ その中で、本当に興味深く、目立っていないものがあると思うのですが、わかりますか？ 耳蓋はありません。ええ、目蓋はあります。ええ、分かっていますが…要点はわかりますね？ 耳蓋は必要ないのです、私たちは耳蓋がなくても、耳を閉ざすからです。— (笑) — やりすぎですか？ 良いですか？ 皆さん大丈夫ですか？ このように作用します。最後です。先に進みますので。何人かは「お願いしますよ」と言っておられますね。この例えを使います。私が子どもの頃、母が私を怒鳴る時…いつもでしたが、当然だったのです。母は私にこんなことを言いました。あなたも両親に言われたことがありますか？ 「自分の子どもができるまで待ちなさい。」「ああ、はいはい。」そして自分の子どもが出来ると…「ごめんなさい、ごめんなさい。あなたが正しい。ごめんなさい。私は分かっていたいなかった。」とにかく…例えに戻ります。母は、あの高い声で、私を怒鳴るのです。ちなみに母はソプラノで、声楽家でした。いやあ、母はある高音を出せるんですよ、カポネは知ってるかもしれませんが、それは、かなりの高音なんです。ずっと高いのです。母はある1つのキー、あるオクターブの高音を出すのです。私の名前を、あのように、あの高音で言うのです。「ワヒド〜！」私は出せません、カポネは出来るかもしれませんが、母がその高音を出すと、私には何も聞こえませんでした。ただ聞こえるのは、「〜〜〜！」私は耳を閉ざしました。もう聞こえなくなりました。母はまだ話して、叫んでいるのですが、私は母の言葉を一切聞いていません。はい、私のことは十分です。では皆さんのことを話しましょう。誰かと会話しているときはどうでしょう。彼らが話して、話して、しゃべっています。あなたは本当は聞いていないのです。実際、考えているのは、ずっと続くので、この会話を終わらせなければということです。そう思いつつ、でも礼儀正しく、長年かけて上手くなったんでしょうね。なので、適当なタイミングで、相槌を打つのです。「そうだよね？」—「わお、面白いね。」すると、彼らがあなたに質問します。あなたは、「へえ〜！」と…あなたはしくじって、聞いていなかったことがバレるのです。「何て言ったの？」「何て言った？」あなたは聞いていなかったのです。耳があるからといって、相手が言っていることを聞いているとは限らないのです。「耳のある者は、御霊が諸教会に語っておられることを聞きなさい。」7つの教会へのすべての手紙が、同じ言葉で終わっているのです。旧約聖書の中でも、

「イスラエルよ、聞きなさい。」耳があるからといって、聞こえるとは限らないのです。先に進む前に、ここが核心です。私たちが主に従わず、主に従順でなく、主に耳を傾けない理由は、自分の心に従い、自分の悪い心の指示に従っており、両方に従うことは出来ないからです。あなたの心は、例外なく、間違った道に導いてしまうのです。なぜか？理由は、17章9節です。あなたの心は欺きで満ちているからです。欺きで満ち、邪悪で、あなたの心は自分の信じている嘘で自分を騙すことが出来るのです。あなたの心はあなたを欺きます。家に帰って、夜、自分の顔を鏡で見る時、自分の人生の中で、最大の嘘つきを見ているのです。あなたの心は、あなたを欺き、嘘をつくのです。欺きで満ち、邪悪なのです。では良い夜を。9節に進みましょう。

9 主はまたわたしに言われた、…

これは興味深いです。

…「ユダの人々とエルサレムに住む者のうちに反逆の事がある。

10 彼らは、わたしの言葉を聞くことを拒んだその先祖たちの罪に立ち返り、またほかの神々に従ってそれに仕えた。イスラエルの家とユダの家とは、わたしがその先祖たちと結んだ契約を破った。

繰り返しますが、これが背後にある理由です。なぜ彼らは拒んだのか？拒むとは、意図的なことです。意識的に、拒絶することです。意図的で、断固としたものです。拒絶すると決めたのです。

「私は拒否します。御言葉を聞くことを拒否します。」なぜか？「私は他の神々に従うからです。」11節。

11 それゆえ主はこう言われる、見よ、わたしは災を彼らの上を下す。彼らはそれを免れることはできない。彼らがわたしを呼んでも、わたしは聞かない。

12 ユダの町々とエルサレムに住む者は、行って、自分たちがそれに香をたいている神々に呼び求めるが、これらは、彼らの災の時にも決して彼らを救うことはできない。

さてこれは、難しい箇所です。すぐに、このように会話を始める人がたくさんいるからです。「公平じゃない。」「彼らが神に泣き叫んでも、神は聞かれないとは、どういう意味ですか？」理解しなければならないのは、間もなく見ていきますが、彼らは意図的に、主を拒絶したのです。彼らは自らこれを招いたのです。彼らは他の神々に従っており、神はこう言っておられます。

「あなたは決断し、心を決め、心を硬くし、運命を決めました。もうはっきりとしており、わたしはあなたに自分自身を押し付けることはしない。あなたはわたしを礼拝したくなく、他の神々を礼拝することを望んでいる。わたしを礼拝すること強要することはできない。あなたに強要しなければならないとしたら、わたしはそんな礼拝を望まない。」

親として考えてみてください。私はいつも、父と子の家族の関係の中に当てはめてみます。自分も地上の墮落した父親として、もし私の子どもたちが、私と時間を過ごしたくないなら、強要はしません。もし私が強要したとすれば…それって…時計を見て、「まだ終わらないかな…」デボーション、主との静かな時間、と呼ばれるものについてお話ししましょうか。「ああ、朝早く起きて、祈りの時間をとらなければ…！」そうなんですか？しなければならぬなんて、神の御心を想像してみてください。

「いいえ。それは特権ではなく、義務なのですか？しなければならぬ？気にしないで。そんな風にはならないで欲しい。自分の意志でやりたいと思って欲しい。わたしと一緒にいることを願い、わたしを礼拝することを望んでほしい。わたしと時間を過ごすことを求めて欲しい。そんな感じであるなら…」主の御心であるなら、これに関して日曜日に見ていきますが、非常に難しい、ヤコブ書の箇所です。聖書には、神は嫉妬深い神であると書かれています。私たちはいつも悲しいことに、肉欲的な嫉妬という枠に

当てはめてしまいます。そうではありません。神は完全に献身的な心を求めておられます。これは第二歴代誌 16 章 9 節で、預言者がアサ王に向かって語ったことです。ところで、当時の王であったヨシヤは、ユダの良い王でした。南ユダには、9 人しかいませんでした。北イスラエル部族には、一人も良い王はいませんでした。北イスラエルの王は皆、主から見て、悪を行ったのです。ユダでは、良い王は 9 人しかおらず、ヨシヤはそのうちの一人です。しかし、9 人の王のうち 8 人は、それを台無しにし、めちゃくちゃにしたのです。つまり、初めは良かったのです。このヨシヤ王は、この章の最後に出てきます。なるべく早く辿り着きたいと思いますが、焦りたくはありません。主はここで何かを用意しておられると思います。このヨシヤ王は、主の御目に正しいこと、神に非常に喜ばれることを行ったのです。彼は良い王であり、エレミヤが預言者であり、預言していた時代の王でした。ヨシヤが行ったのは、ユダのイスラエル人、つまり神の民が崇拝していたバアルの偶像をすべて取り壊したことです。それらを取り壊し、焼き払ったのです。そのことは、この章の最後に紹介する人たちにもよく伝わっているようです。こういうもので大儲けしていたからです。そこにヨシヤが登場し、取り壊します。そしてここで、お先真っ暗な説教をしている預言者エレミヤが登場するのです。実は、ここでその言葉が出てきます。それが大好きです。自分の聖書に線を引きました。この預言者は、お先真っ暗な説教をしています。この王は偶像をすべて壊しています。収入が半分になっただけでなく、生活の糧まで奪われてしまったのです。これはよろしくありません。実はそれがエレミヤを殺そうとする理由の一つでもあるのです。

さて、神は仰います。「あなたはもう選択している。これらの神々を礼拝することを望んでいる。この神々に香を捧げている。じゃあ、困った時には、あなたの神々のもとへ行ったらどうか。なぜわたしのところへ来るのか？ それらを礼拝しておきながら、わたしのところに来るのか？ いや、そういうわけにはいかない。」13 節。

13 ユダよ、あなたの神々は、あなたの町の数ほど多くなった。…

それは多いですね。

…またあなたがたはエルサレムのちまたの数ほどの祭壇を恥ずべき者のために立てた。…

知りたくありません。私にとって余計な情報です。それが何なのかはわかりませんが、いくつか提案する解説者はいますが、本当に知りたくない情報です。恥ずかしく、忌まわしく、考えられないほど、言いようもないこと。

…すなわちバアルに香をたくための祭壇である。

14 それゆえ、この民のために祈ってはならない。また彼らのために泣き、あるいは祈り求めてはならない。彼らとその災の時に、わたしに呼ばわっても、わたしは彼らに聞くことをしないからだ。

聞き覚えがありますね？ そのはずです。神がエレミヤに、「彼らのために祈ってはならない」と言われた箇所を読んだばかりだからです。「いくら言っても無駄だ。わたしはその祈りを聞かず、答えない。彼らはすでに心に決めている。すでに心を硬くし、すでに決断している。彼らはすでに他の神々に仕えたと決めている。だから祈るのを止めなさい。」深くは入りませんが、前回かなり時間をかけましたが、神があなたを、誰かのために祈ることから解放される時があるのです。これには様々な理由が考えられます。時に、神がその祈りを聞かれず、もう遅すぎるからです。彼らはすでに運命を決めたからです。では 15 節。ある意味とても興味深い角を曲がります。神がエレミヤに言わせられたこの言葉を聞いてください。

15 わが愛する者は、わたしの家で何をするのか。…

う～…痛いですね。だって、何を言っているのかわかりますよね？「わたしの愛する者よ、あなたを愛し

ている。わたしはそれでもあなたを愛している。しかし、どうやら、あなたはわたしを愛していないようだ。」

...すでにこれは（多くの者と）悪事を行った。

夫として考えてみてください。これはあなたの愛する者、あなたの妻です。彼女は多くの人と淫らな行為をしてきました。

...誓願と犠牲の肉とがあなたに災を免れさせることができるであろうか。...

これを聞いてください。

...それであなたは喜ぶことができるであろうか。（※悪を行う時、あなたは喜んでいる）

待ってください、えっ？「わたしの愛する者は、多くの人と淫らなことを行った。」これについて、それ以上知りたくありません。十分です。すみません、もう知りたくありません。

「聖なる肉体は、あなたから過ぎ去った。あなたは悪を行った。そして、悪を行っただけでなく、それ自体も十分に悪いことですが、あなたは悪を行った後、あなたが行った悪を喜んでいる。それを自慢し、喜んでいる。それを SNS に投稿している。」現代に当てはめるのに役立ちますか？それが彼らがしていたことです。彼らは、自分たちが行っていた悪を、誇っていたのです。自分たちがやっている悪を喜んでいたので。16 節。

16 主はあなたを、かつては『良い実のなる美しい青々としたオリーブの木』と呼ばれたが、...

愛らしい名前、名前は性質を表します。こんな風に描いてみてください。私と妻が結婚した当初は、お互いにかわいい通称で呼び合っていました。教えませんが。とてもバカっぽいですね？まあ、よくあるのは、カップケーキとかスウィーティーパイとかパンプキンとか...、パンプキン...？とにかく。妻をパンプキンと呼んだことはありません。パンプキンに反対しているわけではありませんが、ただ、合わなかっただけです。私には他の名前がありました。もう一度言いますが、教えませんよ。何をやっても、聞き出せませんよ。私たちにはただ、愛称がありました。それは...思い出すのは、私がオフィスにいて...これは遠い昔、遠い国でのことです。私はスーツを着て、とてもプロ意識に溢れています。

「はい、かしこまりました。では確認させていただきます。失礼します。ちょっとお待ちいただけますか？2番に別の電話がかかってきています。」私の妻です。2番を押します。「はい、ハニー。」（高い声で話す）完全に変わるのです。同一人物であることすらわからない。私たちには自分たちの言語がありました。妻のことを、かわいらしい名前と呼ぶのです。その愛称は教えませんが。それがここで主が仰っていることです。「こんな風に話していた頃を覚えていますか？」青々としたオリーブの木、美しい、良い実、スウィーティーパイ、

...激しい暴風のとどろきと共に、主はそれに火をかけ、その枝を焼き払われるのである。

17 あなたを植えた万軍の主は、あなたに向かって災を言い渡された。これはイスラエルの家とユダの家とが悪を行い、...

17 節の最後に書いてあることに特に注目してください。

...（彼らは自分自身に対して行い...）分かりましたか？自分たちが招いたことなのです。彼らは自分たち以外を責めることはできません。ああ、責めようとはしますが。私たちはいつも、自分以外のすべての人、すべての物事に、非難の矛先を向けるのです。

...バアルに香をたいて、わたしを怒らせたからである。」

私は今日、時間をかけてみましたが、現代がどうなっているのか、比較する例がないのです。このような箇所を読むとき...、今、神の民はバアルに香を焚いて捧げているのです。私たち信者にとって、これがどのようなものであるか、比較対象、現代の例を挙げるのは難しいです。しかし、それは聖なる神への絶対的な冒瀆です。18節。

18 主が知らせてくださったので、わたしはそれを知った。その時、あなたは彼らの悪しきわざをわたしに示された。

どんなことですか？エレミヤ。19節。

19 しかしわたしは、ほふられに行く、おとなしい小羊のようで、彼らがわたしを害しようと、計りごとをめぐらしているのを知らなかった。彼らは言う、「さあ、木とその実を共に滅ぼそう。生ける者の地から彼を絶って、その名を人に忘れさせよう。」

これが筋書きです。これがエレミヤの命を狙った脅迫です。なぜか？ エレミヤが真実を語っているからです。「こいつを黙らせる必要がある。こいつの言うことなんか聞きたくない。」そこで、エレミヤの祈りを聞いてください。20節。エレミヤは主に叫んでいます。

20 正しいさばきをし、人の心と意思を探られる万軍の主よ、わたしは自分の訴えをあなたにお任せしました。あなたが彼らにあだをかえされるのを見させてください。

21 それゆえ主はアナトテの人々についてこう言われる、…

覚えておいてください、後で戻って来ます。

...彼らはあなたの命を取ろうと求めて言う、「主の名によって預言してはならない。それをするならば、あなたはわれわれの手にかかって死ぬであろう。」

つまり、「お前がこのことを語り続けるなら、我々はお前を殺す。やめた方がいい。やめるんだ。そうでないと、お前を殺す。我々が止めさせる。お前を黙らせる。」アナトテの人々とは誰か？ 彼らは誰ですか？ あ〜...彼らはエレミヤの同胞です。エレミヤの故郷のことです。出身地です。興味深いですよ？ イエスが言われるように、預言者は故郷では尊ばれないと知っています。イエスが出身地のナザレでは、ほとんど奇跡を起こすことができなかつたように。彼らは、アナトテの人々で、そこはエレミヤの出身地なのです。それがどんなに邪悪なものであったか、想像できますか？ なぜなら、アナトテの人々は、祭司だったのです。これらは祭司たちであり、牧師たちです。彼らは自分たちの同族を殺したいと思っていて、祭司たちは、預言者を殺したいのです。それほど、ひどかったのです。エレミヤは、復讐は主のものであるから、復讐してくださいと、主に求めたのです。理解できます。想像できますか？ エレミヤがとても繊細な人物であることは、もうおわかりでしょう。涙の預言者です。ちょうど10章を読んだところですが、エレミヤは10章の最初の箇所を書いたとき、もう涙が枯れるほどだったのです。非常に泣いたのです。涙が全く出なくなるほど、泣いたことがありますか？ それほどエレミヤは泣いたのです。彼はとても心を痛めました。このことが彼をどれほど傷つけたか想像してみてください。エレミヤはとても繊細で、心の柔らかい人でした。そして、これは彼の故郷の同胞たちです。彼らと共に育ったのです。子どもの頃、一緒に遊んだのです。年を重ねて、一緒にバーベキューもしました。それが今、彼らはエレミヤを殺したがつている。ただ殺したいと思っただけでなく、その理由は、彼らは、主の御名によってエレミヤが預言するのを止めさせたいからです。22節。

22 それで万軍の主はこう言われる、「見よ、わたしは彼らを罰する。若い人はつるぎで死に、彼らのむすこ娘は、ききんで死に、

23 だれも残る者はない。わたしがアナトテの人々に災を下し、彼らを罰する年をこさせるからである。」

聖餐を与かる前に、少なくとも、エレミヤがここでしていることは正しいことだと言わなければ、大変不誠実だと思うのです。エレミヤのように、自分の身内から、私たちが傷つけ、黙らせようとする攻撃者がいるとき、これは私たちにとって良い模範になると思います。全く問題ありません。私たちは「復讐は主のもの」で止めるのです。なぜなら、私たちの罪の性質、人間の性質のすべてが、自分自身で復讐をしたいと思うからです。つまり...もう一度、申命記の話をしましょう。「目には目を、歯には歯を」その本当の意味をご存じですね？ もし誰かが、あなたの目をとったら...1つだけです。2つは取らないでください。「片目には片目」とは、したくないからです。「一つの歯には...」私は彼らの歯を全部叩き折ってやりたい。そういう意味です。私たちが復讐をするとき、相手がしたこと以上のことをしたいのです。しかし、復讐は主のもので、そこで止まらないでください。なぜなら今読んだように、神がエレミヤに応答されたように、エレミヤは神に正当に復讐してもらおうのです。神は「わたしがする」と仰います。復讐は主のもので、主が復讐を果たしてくださるので、主にお任せしましょう。それは常に正しく、正義です。自分がすると、行き過ぎた復讐になります。あなたが私の歯をとるなら、私はあなたの歯だけでなく、あなたの家族、叔父や叔母の歯も欲しい。すべて取ってやる。「目には目を、歯には歯を。」神にしてくださいませ。神に任せましょう。神に任せましょう。神がしてくださいませ。神が正しくしてくださいませ、正義なのです。自分の手を汚さずに済みます。復讐は主のもので、

最後に一つ。神があなたを終わらせるまで、誰もあなたに触れることはできないし、あなたの命を奪うこともできないのです。神はまだエレミヤを終わらせません。まだ11章です。ほら、もしエレミヤが52の章をすべてを...まだ書いていませんが、彼はこう言うでしょう。「私を殺したいのか？ まだ11章なので、待たないと。まだ出来ないよ。残りの章が多いので、私の命を奪うは我慢してほしい。」要点は何か？ 要点は、あなたの人生の日々は、主の御手の中にあるということです。何も恐れることはありません。人が私にできることを恐れませんが、イエスはこのように仰いました。実に力強いです。

「肉体を殺すことができる人間を恐れるな。肉体を殺し、魂を地獄に送ることができる神を恐れなさい。」
(マタイ 10:28 参照)

それが恐れるべき方です。「あなたは私を殺したいのか？ ああ、私を殺そうとする陰謀があるんだ。」もう企んでいて、調べていて、「火曜日、彼がどこにいるだろうか。まあ、彼はおそらくあの牛乳の箱に戻るだろう。」当時は牛乳の箱を使って街頭で説教していましたから。「そこで彼を殺そう。」「いいでしょう、どうぞやってみなさい。あなたには出来ない。おお、ところで、あなたが殺したい男、彼はわたしに祈った。わたしは彼の祈りを聞いた。これはわたしの男であり、神の男だ。神の預言者であり、神のしもべだ。あなたは彼を殺したいと？ どうぞ、やってみなさい。彼に触れることはできない。触れてはいけません。わたしは御使いたちで、彼を囲む。わたしはまだ彼を終わらせない。」つまり、そのときが来るまで、どこにも行かないということです。1秒も早くなく、1秒も遅くなく。なぜなら、私たちの死の日は、主の御手に委ねられているからです。11章ではありません。あなたは殺せません。これについては52章で話しますが、今はまだです。

さて、このように締めくくり、聖餐式のお祝いに移りたいと思います。聖餐式を楽しみにしていました。急がないよう、できるだけ時間を空けるようにしたいといつも思っています。

親しみを込めて、「最後の晩餐」と呼んでいます。ルカの福音書22章14節から、聖霊によってルカが記しています。

ルカ 22

14 その時刻が来て、イエスは席に着かれ、(12人の)使徒たちも一緒に座った。

15 イエスは彼らに言われた。「わたしは、苦しみを受ける前に(十字架刑のことです)、あなたがたと一緒にこの過越の食事をすることを、切に願っていました。

16 あなたがたに言います。過越が神の国において成就するまで、わたしが過越の食事をすることは、決してありません。」

17 そしてイエスは杯を取り、感謝の祈りをささげてから言われた。「これを取り、互いの間で分けて飲みなさい。

18 あなたがたに言います。今から神の国が来る時まで、わたしがぶどうの実からできた物を飲むことは、決してありません。」

これは二度、イエスが表現されているところです。私は、とても情熱的だと想像します。こんな風に言って良ければ、もしかしたらとても感情的かもしれません。イエスは二度、弟子たちに仰います。「今夜ここでやっていることは、あなたがたと共に行うのはこれが最後です。次の機会を、待ちきれません。」

「熱烈に望む」ある翻訳では、「熱心に待ち望む」とあります。「今夜ここでやっていることが、神の御国で究極の成就を見るまで、わたしは待ちきれません。次回が、待ち遠しいのです。」

19 それからパンを取り、感謝の祈りをささげた後これを裂き、弟子たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられる、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。

ここにおられる方は、聖餐式セットの上部を開けて、オンラインの皆さんも、パンを取ってお待ちください。主よ、あなたに感謝します。私たちは忘れてしまうので、象徴として、思い出すために、この聖餐式を与えてくださったことを感謝します、主よ。私たちは忘れてしまい、特に私たちが生きているこの世界では、忙しさやストレス、生活のプレッシャーにとらわれてしまいます。あなたを思い出して何度も参加するたびに、必要なことを思い出させてくれます。あなたが私たちのためにしてくださったこと、私たちのために死なれたことを。あなたの体が、私たちのために砕かれました。あなたの私たちへの計り知れない愛があるからです。私たちを買い取り、私たちを贖い、私たちを救うために。その時が来たら、あなたは来られ、あなたの御父の家で、私たちのために用意されたその場所に、連れて行ってくださいます。花婿であるあなたとの結婚を祝い、記念するのです。そして、7年が完了した後、あなたが建てて準備してくださった婚姻部屋から出てくるのです。あなたのそばで花嫁として、婚姻の祝宴を開くのです。

それがあなたの言っていることです、主よ、次の時は、あなたの御国であなたと一緒に分かち合う時なのです。私たちには理解しがたいことです。でも今は、主よ、これを私たちに与えてくださったことを感謝します。それは、私たちをあなたに引き戻し、あなたを思い出させてくれるからです。そして、私たちが楽しみにしていること、これがあることを知れば、どんなことがあっても乗り越えられます。多くの人がそのような困難や苦難、辛い試練を経験していることも知っています。しかし、今夜祝っていることが、あなたの御国で成就したときの楽しみであることを知れば、それを乗り越えることがより楽になるのです。主よ、私たちのために裂かれた、あなたの御体を感謝します。一緒にいただきましょう。主よ、感謝します。主よ、感謝します。ルカは続けて書いています。

ルカ 22

20 食事の後、杯も同じようにして言われた。(食事の後です)「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による、新しい契約です。」

ここに居られる方は、杯の残りを剥がしてください。オンラインの方は、杯を持ってお待ちください。当時の文化的な背景は、今も同じで、中東の現代も同じですが、こんにちの私たちの文化では、それが本当に失われているのが悲しいことです。すべての中心は食べ物で、いつも同じパンから食べ、同じ杯から飲みます。なぜなら、それは共同体/common union であるからです。聖餐/communion. 中東、特にアラブ文化圏での考え方は、「あなたの中にあるパンは、私の中にあるパンと同じである」というものです。子どもの頃を思い出します。父と叔父たちが食事をしているのを見ていて、まず、手づかみで食べるのです。野蛮で下品で…しかし、それは問題ありませんでした。彼らは酵母を入れないパンの、ピタパンをとります。お腹がすくでしょうから、すでに夕食を食べていることを願います。それを裂いて、裂いたパンを次の人にあげるのです。彼が一切れ裂き、それをみんなで回して同じパンを食べるのです。それが大事なことからです。同じパンがあなたの中にあり、同じパンが私の中にもある。そして、パンを持って、ニンニクがたっぷり入ったフムスやババガヌーシュにつけて食べるんです。浸して一緒に食べ、一緒にパンを食べるのです。そして、彼らは二度漬けするのです。－ (笑) －

あなたの中にある細菌は、私の中にあるのと同じ細菌なのだから、問題ないのです。私たちは一つなのだから。私たちは一つなのです。問題ありません。そして、杯です。1つの杯で飲み、隣の人に渡すのです。これは絶対に忘れません。実は、結婚式で…もう一歩踏み込んだ話をします、少しだけ。忘れもしない。母に聞いたのを覚えています。ぞっとしたのです。彼らは巨大な…彼らは何週間もかけて準備します。巨大な結婚式の祝宴。ああ、結婚式のご馳走ですね。大きなご飯の山。食べたことないご飯ですよ。いいですか、現地の文化を侮辱しているわけではありません。私はご飯が大好きです。特に、スパイシー・アヒポケと一緒に。このご飯を食べるまで、ご飯を食べたことがないのです。大きなご飯の山です。お皿は？ お皿はありません。食器は？ 食器はありません。ナプキンは？ 必要ありません。彼らが何をやるか分かりますか？ 手を、このご飯の山に突っ込んで、ご飯を取り出して、小さなおにぎりを作って、食べ始めるんです。皆そうするのです。同じご飯で、フォークはなく、お箸さえありません。手です。なぜか？ 共同体。私たちは一つなのです。問題ありません。私たちは同じパンから食べ、同じ杯から飲むのです。私たちの文化では、それが失われています。ですから、私たちの罪の赦しのために、私たちの代わりに流されたイエスの血による新しい契約の杯を、共に飲むのです。これはイエス・キリストの血の象徴です。共にいただきましょう。お立ちください。カポノ上がって来てください。

天のお父さま、感謝します。本当に感謝します、感謝します、主よ。あなたを思い出するためにこれを与えて下さり、ありがとうございます。あなたの体が裂かれ、血を流されたことに感謝します。十字架に行かれ、代価を払って下さったことに感謝します。私たちのすべての罪が赦され、東が西から遠く離れているように、罪が取り除かれることを感謝します。私たちの罪が緋のようであっても、もうそれを思い出されることはありません。あなたの血が流されたからです。どうすれば、あなたに十分に感謝することができるでしょうか？ 私たちの唯一の慰めは、永遠にあなたを賛美し、感謝し、礼拝することができるということです。しかし今は、イエスさま、あなたに感謝します。イエスさま、あなたを褒め称えます。イエスさま、あなたに全ての栄光をお捧げします。あなたが私たちにして下さったのは、あなたの私たちへの愛のためです。イエスさま、私たちはあなたをとっても愛しています。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7